

岐阜県の和紙



和紙は日本各地で発展してきた紙の総称で、昔からつくられている手すき和紙と、明治時代からつくられるようになった機械すき和紙があります。岐阜県内でも古くからつくられており、美濃市と飛騨市では、手すき和紙の伝統が現在まで受け継がれています。

※【 】内は、ある場所：ラベルの番号です。

1. 和紙について調べる

・『和紙文化研究事典』(久米康生／著 法政大学出版局 2012)【一般1階:585.6/ク】

『和紙文化辞典』(1995)の改題・増補改訂版。和紙に関連する語句・事項について、和紙の研究家である著者が図版を交えながら解説しています。

2. 岐阜県の和紙の歴史について調べる

・『岐阜県手漉紙沿革史』(森義一／著 岐阜県手漉紙製造統制組合 1946)【郷土2階:G585/モ】

刊行年が古く読みづらさがありますが、上代から昭和初期までの岐阜県における手すき和紙の歴史が詳しく書かれています。明治期以降の章では、機械すき和紙についても記載しています。

※ 国立国会図書館がデジタル化し、限定公開しています。国立国会図書館で利用登録済みの場合は、ご自宅等でご覧になれます。また、デジタル化資料送信サービス参加館の館内でもご覧になれます。

(URL: <https://dl.ndl.go.jp/pid/2464518/1/1>)



3. 県内各地に伝わる和紙を調べる(手すき和紙を中心に)

【美濃和紙、本美濃紙^{ほんみのし}】(美濃市)

美濃和紙は「美濃紙」とも呼ばれ、美濃地方で作られる和紙の総称でした。現在では美濃市で作られる和紙を指します。美濃和紙のなかでも「本美濃紙^{ほんみのし}」は、昭和 44 年に国の重要無形文化財(工芸技術:手漉和紙)に指定され、さらに平成 26 年には「石州半紙」「細川紙」とともに「和紙:日本の手漉和紙技術」としてユネスコ無形文化遺産に登録されています。

・『ひだみの産業の系譜』(岐阜県産業史調査研究会/編 岐阜県 1999)【郷土2階:G602/ヒ】

美濃紙や美濃焼、木工産業など、特色ある産業をとりあげて、それらを支えてきた人たちが受け継がれた技能を写真や図を交えて解説しています。県内各地の産業の概要を把握することができます。

・『美濃の和紙』(岐阜市歴史博物館 1987)【郷土2階:G585/ミ】

昭和 62 年に開催された企画展の図録。モノクロ写真をまじえて美濃地方での和紙生産の歴史などについて解説しています。明治期以降の機械すき和紙についても若干ふれています。

・『美濃和紙年表』(村井正造/編 1990)【郷土2階:G585/ミ】

西暦 105 年(景行 35 年)から 1986 年(昭和 61 年)までの手すき和紙、機械すき和紙を含む紙に関する事柄を収録した、読む年表です。

・『美濃紙 その歴史と展開』(沢村守/編 同和製紙 1983)【郷土2階:G585/ミ】

古代から戦後の、美濃紙に関する歴史家の研究論文、地元の古老からの聞き書きを掲載しています。機械すき和紙の製造に関する聞き書き等も含まれます。国立国会図書館がデジタル化し、限定公開しています。(URL: <https://dl.ndl.go.jp/pid/12044561>)



・『美濃紙抄製図説』（岐阜県勸業課 [1880]）【郷土書庫：G585/ミ 貸出できません】

紙すきの方法を伝える貴重な記録。デジタル化し、県図書館ウェブサイトで公開しています。

（URL： <https://www.library.pref.gifu.lg.jp/dc/kyoudo/1790000197/>）



・『和紙：日本の手漉和紙技術』（ユネスコ無形文化財遺産登録手漉和紙連携推進実行委員会 2014）

【郷土2階：G585/ミ】 本美濃紙がユネスコ無形文化遺産に登録された時のパンフレットです。英文併記。

・『手漉和紙』（文化庁 1971）【郷土書庫：G585/テ 貸出できません】

『無形文化財記録』工芸技術編の3巻目にあたります。沿革や行程のほか使用する用具の図面も掲載されています。本美濃紙のほか越前奉書、石州半紙の記録が収録されています。

・本美濃紙（美濃市ウェブサイト）

本美濃紙の要件や本美濃紙をすく保存会会員の紹介、製作工程などが掲載されています。

（URL： <https://www.city.mino.gifu.jp/honminoshi/>）



さんちゅう
【山中和紙】（飛騨市河合町）

鎌倉時代から始まったとされる山中和紙は、厳しい寒さを活かして、材料の楮を雪の上にさらして漂白する「雪晒し」を行ってつくられています。平成 27 年、飛騨市の無形文化財（工芸技術）に指定されました。

・『飛騨河合山中和紙 飛騨伝統産業』（奥田利男／編 飛騨河合手漉和紙組合 2007）【郷土2階：G585/ヒ】

800 年の歴史を誇る、飛騨河合山中和紙の歴史をまとめた本です。

【坂下和紙】（中津川市坂下町）

坂下町での和紙づくりは江戸時代から始まり、主に障子紙がつくられていました。現在はつくられていませんが、坂下の和紙づくりを後世に伝えたいという熱意から自費出版された下記の図書が残っています。

・『図説坂下手漉和紙』（武藤静雄／著 1985）【郷土書庫：G585/ズ】

刊行当時、坂下町で最後の1軒となっていた紙すき業者・楯さん一家の手すき作業を著者が写真に収めてまとめた一冊。各工程のコツや難しさについても簡潔に付記しています。

※ このほかにも岐阜県の和紙に関する資料を所蔵しています。

- ・岐阜県図書館ウェブサイト「詳細検索」で検索してみる

PC で検索する場合、右図のように検索対象「図書」、資料区分「郷土」を選択すると、岐阜県関係の図書資料のみを検索できます。

<https://www.library.pref.gifu.lg.jp/winj/opac/search-detail.do?lang=ja>

キーワード

和紙



- ・岐阜県図書館ウェブサイト「岐阜県関係資料の目次」で目次を閲覧・検索してみる

自治体史で和紙を取り上げていることがあります。

岐阜県内の市町村史については岐阜県図書館ウェブサイト「岐阜県関係資料の目次」で目次を閲覧・検索できます。

（未掲載の市町村史もあります）

<https://www.library.pref.gifu.lg.jp/gifu-map/gifu-related-materials/toc/>

（URL確認：2024 年 3 月）

